三重大学大学院工学研究科建築学専攻　三宅　諭

（左）瓦礫処理の進む焼失した市街地（輪島市）
（右上）母屋、通り、舟屋で構成される美しい佇まいの赤崎集落　（右下）まだ倒壊した状態の残る市街地

能登半島地震復興シンポジウムと現地視察

6 月 15 日に金沢市で能登半島地震復興シンポジウムが開催され、翌 16 日は現地視察も行われました。七尾市から志賀町赤崎、輪島市黒島、輪島市朝市通りの現状を通して、前日のシンポジウムで提起された地域の多様性を確認することができました。また、それぞれの場所で異なる被害特性や土地の隆起、主要産業の景などを通じて、生業の再開と継続を阻害しない復興や自発的な早期取り組みの重要性、成長拡大時代の発想から脱却する適切なスケール感、営みの現れとなる景観に留意した復興への理解も深まりました。一方で、輪島市朝市通りで瓦礫の除却が始まったものの、まだ大半の地域で瓦礫の残る姿から、今回の災害の特殊性も垣間見えました。

【所属機関・連絡先】
三重大学大学院工学研究科建築学専攻　三宅　諭
Tel：059－231－9447　E-mail：smiyake@arch.mie-u.ac.jp